

えいらい

No.18

平成 25 年 10 月発行
発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院

秋号
2013



〒790-0067 愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者／院長 山本祐司 編集／松山市民病院広報委員会

基礎と土台の点検を

～強い紐帯を目指して～



副院長 水上 祐治

平成24年春、内科外来・ICU棟を解体し、更地にした後、地盤を深く掘り下げ、太い杭を打ち込み、鉄筋を張り巡らせ、周りに大量のコンクリートを流し込み、頑丈な基礎が出来上がりました。建物づくりの中で最も重要なのは基礎工事と言われています。今、工事は急ピッチで進んでいます。

さて、近年の技術革新は目覚ましく、その恩恵は医療分野にも広く行き渡っています。ゲノム解析は短時間で可能となり、多くの病気で疾患関連遺伝子が同定されました。その結果、病態への理解が深まり、根本的治療薬が次々と開発されています。医療機器の進歩は精細な診断、低侵襲治療を可能にしました。IT化によりデータの蓄積、検索、集計が容易となり、質の高い研究が行われ、客観的証拠に基づく医療を選択する時代になりました。診療内容は劇的に変化しました。

世界中の研究者が新たな知見を求めて競い合い、毎日膨大な量の論文が発表されています。その分、新しい知識を吸収し、技術を習得していく必要があります。進歩についていけるだけの基礎・土台作りが欠かせません。

医療の高度化は医療職の専門分化を促し、診療に関わる職種が複雑になっています。多職種の協働がルーチン化し、医療現場では多くの業務がチームで遂行されています。チームワークの基盤の強さが、患者さんへ提供する医療の質を左右することになり

ます。ゆるぎない土台ができれば多くの仕事はスムーズにいきます。各人が技能を修得しているだけでは上手いきません。人間関係の不良がコミュニケーションエラーを引き起こし、診療に重大な支障を来す危険性があります。同僚の人柄を理解し、他職種を尊敬し、良好な関係を形成する力量を身につける必要があります。これには経験の蓄積、量も物を言います。個人だけでなく、チームのレベル向上が期待されます。

昨年、国内の化学工場で大事故が相次ぎましたが、報道では、施設の老朽化が原因ではなく、基礎知識がなくても高度な設備を運転できるようになったことが背景にある、と現場力の低下を指摘していました。「マニュアルばかりで化学の基礎的な知識が足りない」と嘆く声も聞かれました。他人事ではありません。病院の仕事は、患者さんの健康、生命に直ぐ繋がりますので、気が抜けません。

新病棟はまだブルーシートで覆われていますが、これが外されると南棟付近は素晴らしい景色に一変するでしょう。平成26年春の一期工事完成までもう少しです。新病棟が私たちをしっかりと支えてくれます。医療の更なる高度化は歓迎すべきことであり、全職員がこの時代に合った学習を行い、技能を高め、経験を共有し、継承していくことが大切だと思います。